

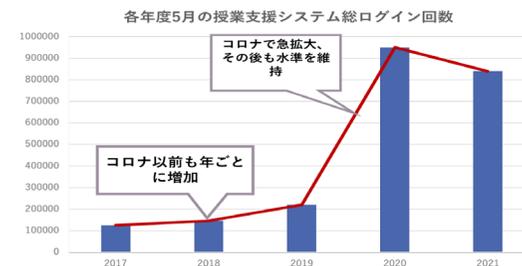
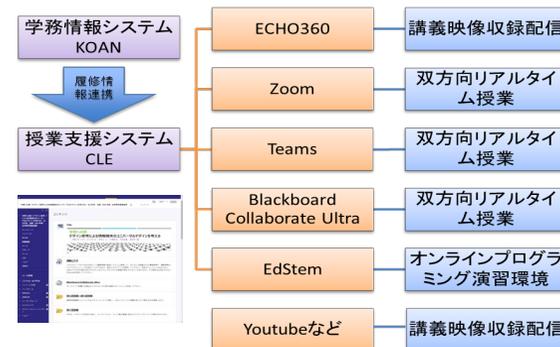
表題 ブレンデッド授業を支える教育・学修支援情報基盤の整備

特色ある取組

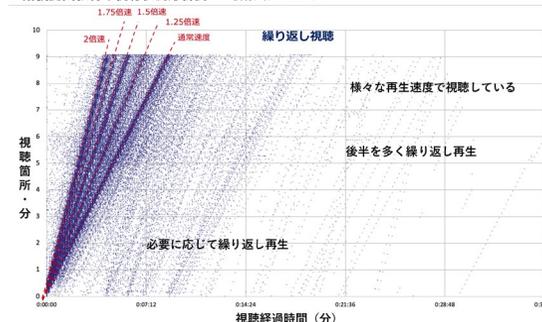
デジタルネイティブな学生や教員の増加に対応する教育・学修スタイルの変容を、ICTを駆使して支えるべく、本学では2006年に授業支援システム(LMS)をいち早く全学導入した。その後もメディア授業の基盤となるシステムの整備に努め、講義映像収録配信システム、双方向リアルタイム会議システム、SaaS対応プログラミング教育環境等との連携をLMSを中心に据えて、一体的に拡充してきた。

その結果、昨年度のコロナ禍による対面授業制限時も、メディア授業へ短期間でスムーズに移行できた。すべてのシステムをクラウド上に構築していたため、利用急増への対応が必要なく、メディア授業に必要な知識・技能習得の講習会の実施、そのオンデマンドビデオ配信、各種情報発信ウェブサイト構築、利用者支援ヘルプデスク拡充等を迅速に実施し、高等教育の質を担保することができた。

さらに、これらの基盤を多くの講義が利用することにより、講義動画の視聴行動や学生の利用状況の分析を容易に行うことができ、授業内容改善の一助となり得る。



講義動画教材の視聴状況分析例 視聴人数: 2263人



期待できる成果・評価 など

今後、学修環境の多様化の流れの加速が予想される中、教育・学修支援情報基盤の更なる整備を行い、学修データ収集、分析、結果の可視化を学生・教員が活用することで、学修者の特性に応じた多様な学修スタイルを駆使した個別適応型学修環境の提供実現が期待される。